

ボネット展望台駐車場 標高2805メートル

志村 良知

「そんなにこっちに寄らないでよ。怖いよ」

助手席の連れ合いが足をばたばたさせて喚く。車はフランス南部、アルプスにあって車で行ける一番高い場所、標高2805メートルのボネット展望台駐車場に向かう急坂を一速で這登っている。

道路は標高2715メートルのボネット峠（グランゲ峠）の鞍部から、展望台があるピークを反時計回りにぐるりと一周する一方通行。アスファルトを流しただけの狭い道路には路側帯もガードレールも無い。左ハンドルなので助手席が道路の外側になり、お尻の10センチ脇から一気に遙か眼下に霞む谷底という気分らしい。かといって左側には粗削りのごつい岩壁や素掘りの側溝が迫ってくる。

フランス地方道D64号線ボネット峠も、森林限界より1000メートル上、遮るものがない素晴らしい展望が続いている。ニース街道という洒落た名前であるが、すれ違いは譲り合い徐行の厳しい峠道である。ニースを示す道路案内板が冗談に見えるボネット峠鞍部を越えればあとはニースまで120キロ、ひたすら下りで実時間4時間で行ける。

この場所は徒歩時代からのイタリア方面とフランス中央部を結ぶルートで、古い徒歩峠道は整備され人気のハイキングコースとなっている。車の時代になると南への防御を固める必要が生じ、所々にトーチカ跡があり、今も峠の途中にフランス陸軍基地がある。

国境の峠に軍事施設があるのはアルプスでは珍しくなく、軍事大国スイスでは龍の歯と呼ばれる対戦車障害物が現役である。車のエンジンが電子制御になる以前のキャブレター時代、富士山や麦草峠、金精峠といった高い場所では薄い空気にガクガクに喘いだが、電子制御も過給機もない昔のトラックや戦車のエンジンもアルプスの峠では盛大に喘いだであろう。

峠を下りきった所にある小さな町のレストランに入った。店の前に広がる花壇と見えたのは実は菜園で、サラダは注文を受けてからおかみさんが目の前で摘んでくれるのだった。